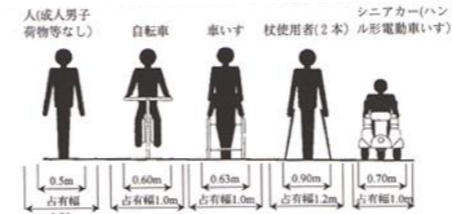


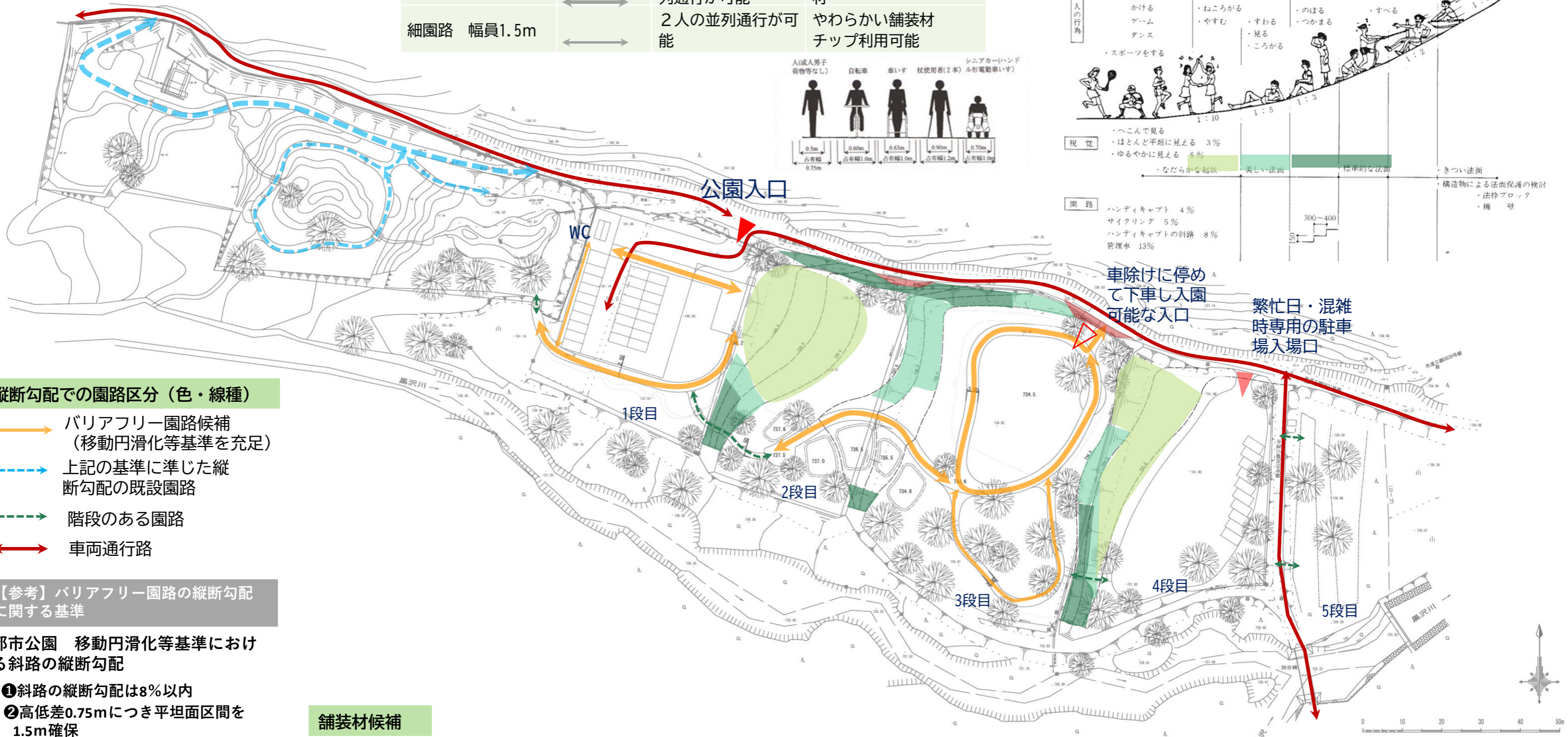
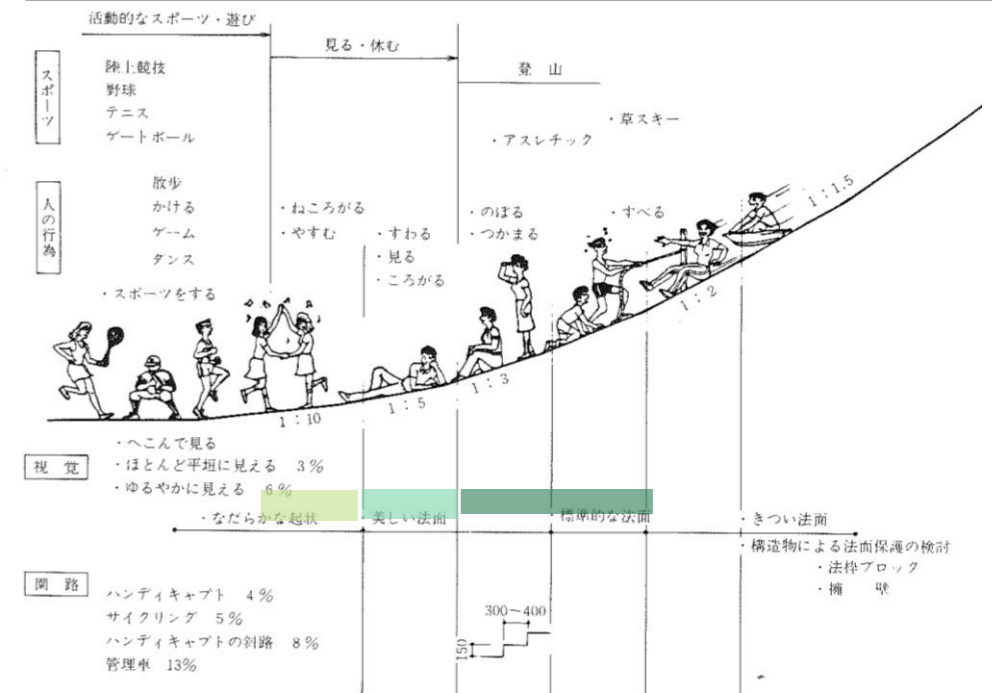
造成・園路広場計画

園路の区分(幅員・利用に応じた仕上がり)

名称	太さ表示	管理動線	表層仕上げ
主園路 幅員3.0m (一部2.5m)	↔	軽トラックの通行が可能	車両・車椅子対応可能な硬めの舗装材
副園路 幅員2.0m	↔	車いすと人1人の並列通行が可能	車椅子対応可能な舗装材
細園路 幅員1.5m	↔	2人の並列通行が可能	やわらかい舗装材 チップ利用可能



【参考】広場の勾配と活動の関係



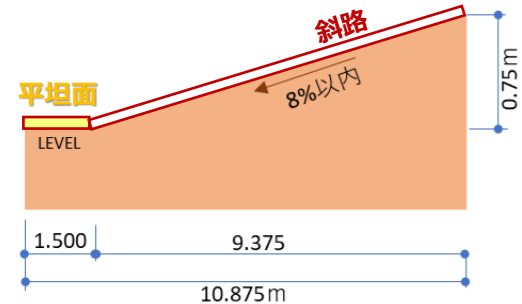
縦断勾配での園路区分(色・線種)

- ↔ (Red line) バリアフリー園路候補 (移動円滑化等基準を充足)
- ↔ (Blue dashed line) 上記の基準に準じた縦断勾配の既設園路
- ↔ (Green dashed line) 階段のある園路
- ↔ (Red double line) 車両通行路

【参考】バリアフリー園路の縦断勾配に関する基準

都市公園 移動円滑化等基準における斜路の縦断勾配

- ①斜路の縦断勾配は8%以内
- ②高低差0.75mにつき平坦面区間を1.5m確保



舗装材候補



□環境に配慮した舗装の例 (左から自然石、木チップ、土系舗装)

川沿いの対応

○河川管理者からは、公園付近一帯は安全確保と利用を念頭においた河川整備を行う区間ではないことを確認。
 ○あくまで河川の自由使用の範疇で個人の責任で川に近づくことが許容される区間として認識。
 →安全管理の責任上、公園側から積極的な誘導路は付けにくい条件
 ○北黒沢川沿いについては河川区域の境界が明確に定まっていないため、今後、河川管理者である長野県と継続して調整を進める。

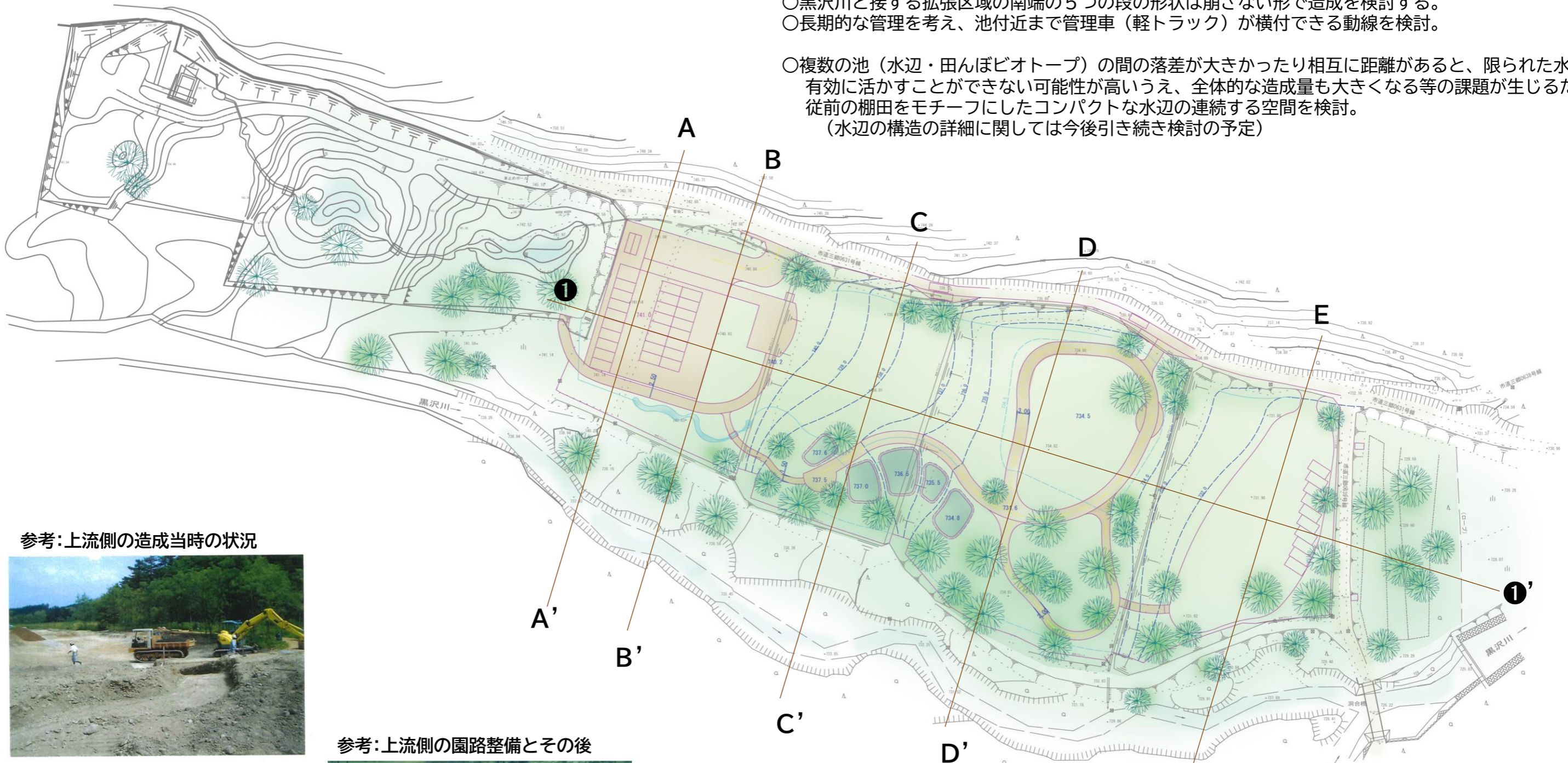
計画平面図(計画高検討図)

■立地条件・住民説明会意見等を踏まえた検討方針

- 現地で発生する土で基本的な形状を造成することを基本（土を持ち込んで盛り立てる造成は行わない）
- 現地で発生する石材や表土を有効活用する。
- 在来の植生の卓越した畔の一部は表土と植生をブロックで移植する方法で活用を図る。

- 黒沢川と接する拡張区域の南端の5つの段の形状は崩さない形で造成を検討する。
- 長期的な管理を考え、池付近まで管理車（軽トラック）が横付できる動線を検討。

- 複数の池（水辺・田んぼビオトープ）の間の落差が大きかったり相互に距離があると、限られた水量を有効に活かすことができない可能性が高いうえ、全体的な造成量も大きくなる等の課題が生じるため、従前の棚田をモチーフにしたコンパクトな水辺の連続する空間を検討。
(水辺の構造の詳細に関しては今後引き続き検討の予定)



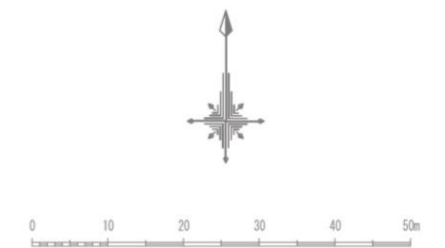
参考:上流側の造成当時の状況



参考:上流側の園路整備とその後

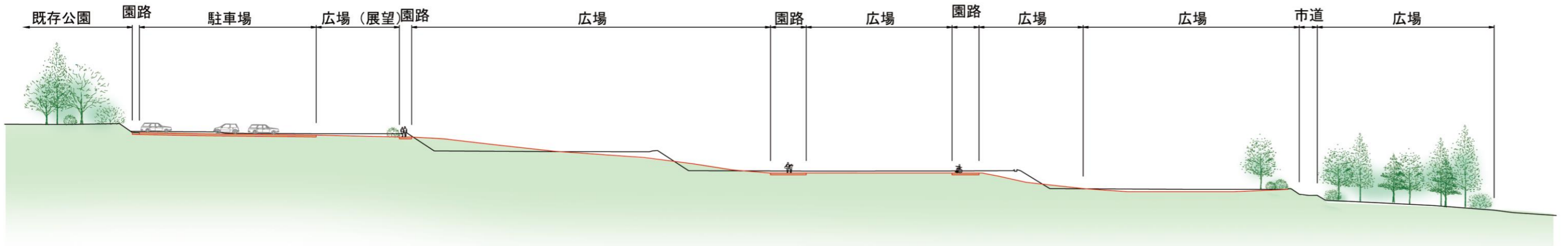


現在は一面草地に見えるが、下層には管理車が入れるよう碎石の路盤を確保、表層には土系の舗装を用いて仕上げられている

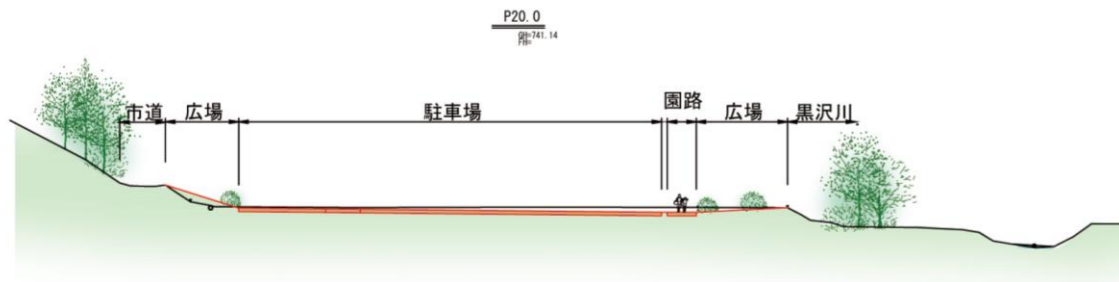


断面イメージ

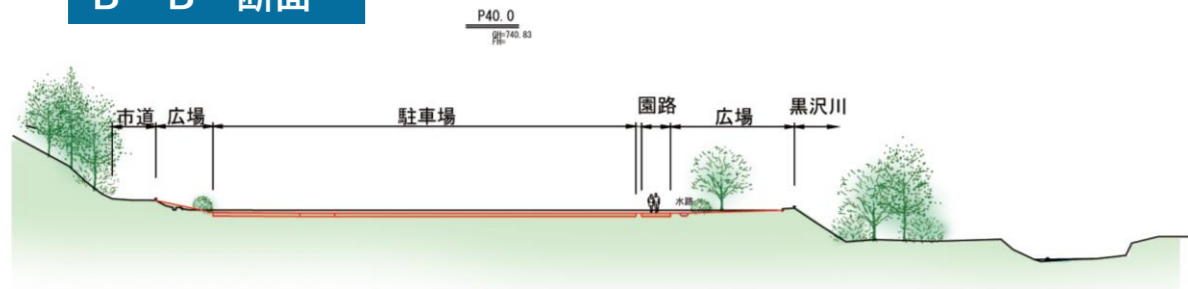
縦断方向①-①'



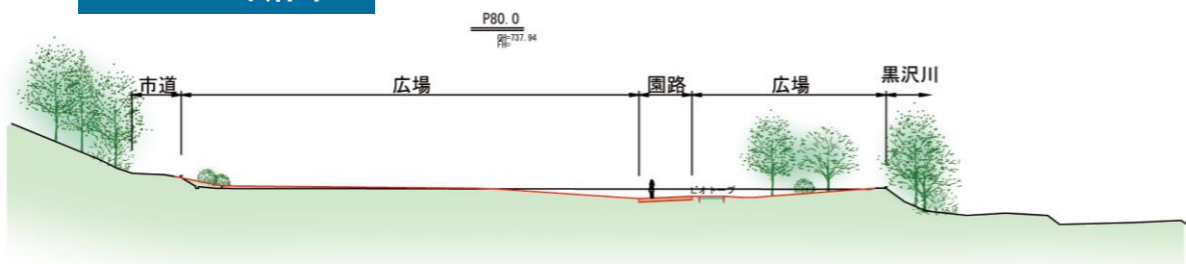
A-A' 断面



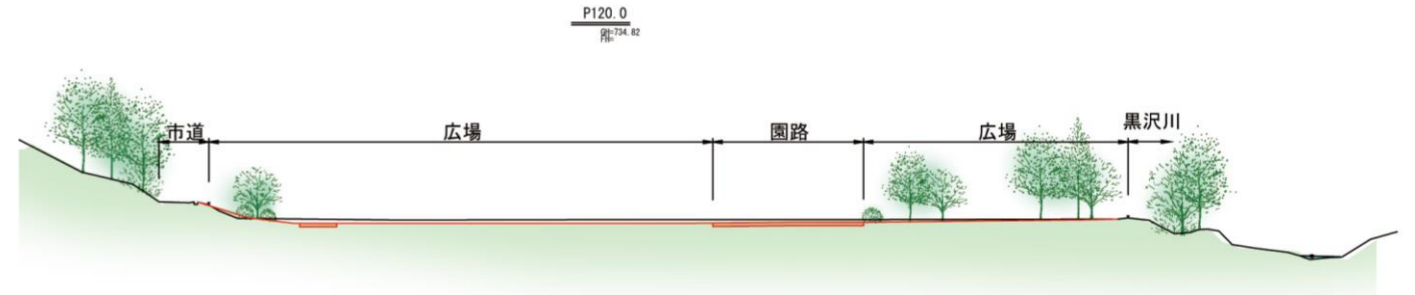
B-B' 断面



C-C' 断面



D-D' 断面



E-E' 断面

